

学 校 教 育 目 標	明るく元気な子 なかよくする子 かんがえる子 つたえあう子
目 指 す 学 校 像	自分と共に他の人を大切にする学校【自他共愛】
重 点 目 標	1 学びの自律と個別最適化の実現に向けた情報端末の活用と授業改善の推進 2 生徒指導、教育相談を充実させ、一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりの推進 3 3者の連携による交通安全教育・環境教育の充実と地域に開かれた学校運営の推進 4 子どもたち一人ひとりが安心・安全に過ごせる学校づくりに向けた更なる教育環境整備の実現 5 教職員自らが目指すキャリア形成を実現させ、業務改善を行い、働きやすい職場づくりの実現

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	●現状 ・R6 全国学力・学習状況調査では、国語、算数の結果から、ほぼ全国平均点であり、市の平均よりやや下回っている。 ・R6 さいたま市学習状況調査では、6 年の国語以外、3 年～6 年まで全ての教科で市の平均を下回っている。 ●課題 ・基礎的、基本的な知識や技能が身に付いていないところがあり、学校で学習を振り返る機会をつくったり、練習をする時間を確保したりしていく必要がある。 ・学校以外での学習時間が、市の平均と差があることが課題であり、大宮西中学校との小中一貫の連携を進めていく必要がある。	・確かな学力の定着に向けた授業改善と情報端末の活用	①タブレット端末を活用し、児童の学習への取組状況・つまずきを確認し、個別最適な学習ができるようにする。 ②各教科のねらいの達成のために、どのようにタブレット端末を活用できるか吟味し、オクリンクやムーブノート等を積極的に活用し、児童の表現力向上を図る。	①学校評価アンケート（児童）の学習の理解に関する項目で肯定的な回答の割合が昨年以上となったか。 ②学校評価アンケート（児童）のタブレット活用に関する項目で肯定的な回答の割合が昨年以上となったか。					
2	●現状 ・R6 学校評価（R6 年 11 月）及び市学習状況調査（生活習慣調査）で約 90%の児童が「学校生活が楽しい」と回答している。 ・長期欠席児童や不登校の児童が増加傾向にある。 ●課題 ・長期欠席児童や不登校、教室に入れない児童（Sola る一む利用者）とその保護者の抱える悩みや不安は、多様化しており、個別に対応していく必要がある。	・子どもたち一人ひとりが安心してできる学校生活が送れるような環境整備	①挨拶運動で校長、教職員が率先垂範する。 ②全校朝会での講話、校長室の廊下掲示板を通して、みんなが安心できる学校になるためのコツを伝える。 ③積極的に褒め、自己肯定感を高める実践。	①学校評価アンケート（児童）の「学校生活は楽しいですか」の項目で肯定的な回答の割合が昨年以上となったか。 ②校長室の廊下掲示板の資料提示を毎月更新することができたか。					
3	●現状 ・昨年度、学校運営協議会での熟議を重ね、学校、家庭、地域の3者による自然園の環境整備、通学路の安全確保の2つについては継続することが決まっている。 ●課題 ・3者がそれぞれに取り組むこと、連携を図って取り組むことについて、具体的な方策を熟議し、形にしてい必要がある。取組については、情報発信を行い、周知していきたい。	・環境整備・安全教育を中心とした3者協働活動の推進	①「潤い自然園」の整備を計画的に進め、SDGs と関連付け、児童の探求的な学びを実践できるようにする。 ②通学路の課題に向けたプランに基づき、具体的な方法を定め、学校と保護者、地域と協働した取組を始める。	①「潤い自然園」が、日常的に授業で活用できる環境となったか。 ②学校、家庭、地域が協働し、通学路の課題解決に向けた取組を実施する事ができたか。					
4	●現状 ・創立 56 年目を迎え、校舎、設備の老朽化が目立つ。 ・校庭に不要な施設がいくつもあり、要望は出しているが撤去されていない。 ・空き教室が少なく、教科等の備品や消耗品を置く部屋が少ないので廊下等に置いている現状がある。 ●課題 ・毎回の安全点検の確実な実施と不備箇所報告の流れを確立 ・Sola る一むの適切な設置場所がない。 ・予算会議を開き、学校予算を目的を明確にして、計画的に執行をしていく必要がある。	・安心安全な学校づくりの推進	①3者が連携し、学校の環境整備を複数の目で行い、安心安全な学校をつくる。 ②管理職、用務担当、学校警備員の連携を密にして、毎日の見回りの際の情報共有をする。事務職員と連携し、即対応をする。 ③3者による登下校指導、見守り、情報共有。	①学校評価アンケート（保護者）の教室各施設の環境の項目、肯定的な回答の割合が昨年以上となったか。					
5	●現状 ・学校課題研修では、グループごとの研究で、各教職員が課題意識をもって、授業改善を目指している。教職員の研究への取組は大変意欲的である。 ・業務改善に前向きな取り組みをする教職員が多い。 ●課題 ・研修や校務分掌の仕事を通して、各教職員のキャリア段階に合わせた、指導力と専門性を高めていく必要がある。 ・教職員として、キャリア形成をしながら、不祥事防止のための理解と実践力を身に付けさせていきたい。	・教職員のキャリアアップにつなげる研修や支援の充実	①教職員との人事評価当初面談で、教職員のキャリア段階と目指すべき教師像を共有し、具体的な研修計画や目標について共有し、支援していく。 ②年次研修、学校課題研修、授業公開を通して、教職員の学び合う風土の醸成を図る。	①学校評価アンケート（教職員）の児童が主体的に学ぶ授業の項目で、肯定的な回答の割合が昨年以上となったか。					

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

学校づくりと地域とともにある取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組